

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	四つの柱を挙げ取り組んでいる①ゆったりとした自由な環境の提供②一人一人の個性を大切にする取り組み③家族との連携を深め在宅復帰を目指す④街に開かれたグループホーム作り		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼引継ぎ時間に理念の唱和を行っている。法人全体の取り組みとして、新規職員対象に、具体的な法人理念の意味についての研修会を実施。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の中で、委員と懇談。事業所が外出行事を計画する機会に、企画の意味・目的の中で必要性を伝えている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所のお花の先生が、自由にお花を生けに来てくださっている。また、近所から入所されている利用者が家に帰りたいと訴えられたとき、一緒に近くまで歩き、利用者が親しくされていた家に立ち寄り世間話をして帰ったりしている。近くの修道院との交流も意識している。		利用者さんの体力低下によって外出方法が変わってきています。例えば、近所を歩いて散歩ができていたのが車を使ってのドライブに変わったり、車椅子を使っての散歩になったりしてきます。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	積極的に出かけて行くことは、利用者さんの体力、機能低下によって実現が困難になってきている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年度は、地域民生児童委員協議会に参加し認知症介護について事例を交えた講演を行った。	○	事業所職員が、認知症介護専門職として地域に認知症理解に向けた取り組みを実施したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	実現がなかなか出来ない事への未達成感を感じている。が、評価を受けることで改善に繋げていける効果も感じ、少しずつではあるが取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	敷地内を出て、近所まで散歩に出られる利用者さんがあり、運営推進会議委員さんにも拘束をしていない理由を説明し、近所の協力をお願いしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催の研修があり、前日、講師の先生を事業所に呼び利用者さんの様子を見てもらってアドバイスを受けた。口腔ケアの研修・・・実際、講師の先生に事業所に来て貰った事で、具体的なアドバイスを頂いた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度、2人(内1名は専門の方に家族と共に説明を受けた)		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が、舞鶴市が取り組んでいる高齢者虐待防止委員会の委員に加わっている。その中で、虐待にもいろんな虐待があることを学び、必要に応じ職員にも伝えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>			
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者さんからは意見、苦情、不満を申し受けることは出来難いが、自由な環境を提供することを目的としている中で、我慢されることなくかなりの思いを伝えて頂けていると思っている。それらの意見は(表情も含め)参考にさせて貰っている。		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、請求書発行時、残高報告(コピー)と領収書、利用者さんの様子を同封し報告している。職員紹介は、面会時に紹介しているが、勤務の都合等もあり確実な紹介は出来ていない。		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関先に苦情受付箱を設置。面会時、職員がご家族と話す意識付けを行っている。法人内に苦情受付担当者を置いている。特に利用者さんに対するご家族の思いは、面会時の様子にあると考え、日頃の話しやすい雰囲気作りを意識している		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>			
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	現在、1名食事介助に時間を要するため、時間差出勤の勤務体制をとっている。		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では新人職員研修の実施。法人外では必要に応じた研修に積極的に参加するよう、また、資格取得に向けた声掛けを行っている。重度化する利用者への介護技術の勉強会を実施(排泄・食事等)		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府下グループホーム連絡会に出席し情報交換、勉強会を行っている。19年度は、職員研修も実施。18年度に行ったグループホーム職員施設交換実習の効果が大きかったので、今年度も予定されている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員親睦会があり、1年に概ね3回の親睦会主催食事会を開催し、法人から補助を行っている。又、ボーリング、ソフトボール、ウォーキング等のサークル活動への参加を呼びかけ補助を行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	昨年度から、人事管理システムを導入し試行実施をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今年度、新規入所者がいないが、入所前には必ずご本人に会い、入所された時、なんとなくでも見慣れた顔があり、安心感を持っていただく努力は行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られたときの時間はとても大事と考えている。入所申し込み時も、介護の大変さを理解していることを伝え、困られた時の一報を待っている旨の一言は付け加えるように意識している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に相談に来られたときは、必要に応じ在宅介護支援センター職員に繋ぎ、何かしらの安心感を持って帰っていただくようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		○	今年度の入所者がなく実際には行っていないが、必要なことと考える。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	あるがままを受け入れることがとても必要であり、大切と考える。サービス方針の中にも掲げ日々努力している。日課のない生活の中にも、個々に応じた張りのある生活を目指す。	○	理想と現実の差に悩むが、利用者さんに目を向けることを忘れてはならない事を、確認しあいながら、他事業所の取り組みも常に参考にさせて貰いたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの日々の生活状況を毎月連絡表で伝える。変化があれば都度電話でお伝えする。面会に来て頂きやすい雰囲気作り。家族会への呼びかけ等行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	社会福祉協議会の協力も得ながら、1名、親族との関係が悪く任意後見制度を利用されていたが、今年度、姪に引き継ぐ事が出来た。面会回数も増え、職員との会話も増えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅願望の強い利用者さんと家の近くまで同行し、地域に居られる友人と思い出を語り、落ち着いて頂く効果を得ている。		認知症に対する正しい理解が得られなく、友人の面会を受けた時「立派な人がこんなになって・・・」「家族の面会はありますか」等言われ、関係を維持することの困難さも感じました。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホールの設えの工夫、テーブルの位置を考え、職員が場所を決めるのではなく、利用者さんが動きの中で、また、関係作りの中で決められた居心地良い場所を、ご本人の居場所と考え実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		○	現在、その様なケースはないが、もしその様なケースが生じた場合には考えていく必要があると思う。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	同敷地内にある特養、デイサービスセンターの協力も得ながら、自由な環境作りに努めている。一方で、意思表示困難な方に対し、私だったらとの考えを基本に、本人本位のあり方を検討している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族と入所前からの行きつけ美容院に行かされている方1名、自分でされる方1名、ご家族が来てされる方2名、後は特養にいられている業者さんに職員がお願いしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	敷地内を出て歩かれる方、買い物同行を好まれる方、特養行事を楽しみにされる方など様々だが、極力個々の思いに添えるよう他事業所の協力も恵ながら、思いに近づく努力を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族が来られたとき、思いが聞ける時間を意識し、プランに取り入れる努力をしている。	○	ご家族にはまだまだ受身の意識が強く、今後も話し合いを続けていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の体調変化等で見直しが生じた場合、現状に応じた対応はご家族とも連絡を取り合い実行している。	○	記録と、プランの連動が難しく、今後も今も記録については検討を加え、研修会にも積極的に参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は出来ているが、プランとの連動が充分でない。	○	他施設にも声をかけ、年内に研修会を予定している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	舞鶴市介護相談員制度を受け入れ、介護相談員に来ていただいて利用者の意見要望等を聞いていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医利用1名、必要に応じ総合病院受診、耳鼻科受診など、ご本人の判断が困難なだけに、ご家族との相談を重視している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ受診を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に看護資格を持った職員を採用している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の必要性について主治医と相談し、馴染みの関係の中で生活されることの大切さを重視し、ご家族とも相談の結果、施設での生活を選択したケースあり。今年度、入院された方はいない。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	都度、ご家族と話し合っている。	○	ご家族は、長期入院・認知症患者が病院に受け入れてもらえない経験をされた方が多く、施設を退所しなければなくなる不安を強くもっておられ、施設での終末期ケアを希望される。自宅に受け入れる思いや覚悟は持たれていない現状がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員の時間差出勤を実行し、ご家族の思いを汲み取りながら経口摂取の取り組みを行っている方1名。	○	最後まで施設での生活を希望されているのが現状。今後でも出来ること・出来ないことを説明しながら、出来るだけ終末期のケアを行って行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		○	今年度はないが、今までに2名住み替えを行われた。1名九州に→馴染みの職員が付き添った。1名→同法人の同敷地内の特養への住み替えであった為、日頃から行き来があり、職員も顔馴染みになっていた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議等の場を使って、こまめに職員間の意識付けに努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	根気良く説明を行っている。また、時には利用者さん同志の喧嘩もあるが、職員が中に入り話題を変えたり、場所の移動によって解決を図り、できるだけ自由にと考えている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での日課のある生活は意識して取り入れていない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族と入所前からの行きつけ美容院に行かれている方1名、自分でされる方1名、ご家族がされる方2名、後は特養に来られている業者さんに職員がお願いしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	卵、肉類が苦手な方には魚料理を考えたり、料理方法に工夫を加えたりしている。また、食材の買出しは利用者さんの楽しみ時間となっている。準備や食事、片付けも一緒に行っている。	○ 機能の低下によって、準備、片付けの内容も限られてきているが、受身の生活になられないためにも意識していきたいと考えている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、煙草の希望者は入所時から現在のところない。飲み物、おやつなどは自由。また、血糖値の高い方には別のシュガーを購入している。	○ 今後、入所される方の中で必要なら考えていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	今年度、排泄委員を中心に、オムツアドバイザーを受け入れ、正しい排泄ケアのあり方について研究している。個々の排泄パターンの把握に努め、成果が見えつつあるところである。また、1名、ポータルトイレが使えるようになった。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴介助担当者は午後からの出勤シフトに組み込んでいるが、利用者さんの入浴に関しては、曜日、時間共に強制は行っていない。また、お風呂の嫌いな方、済ませたと思いつまれている方については、間を置いて声掛けを行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベッドの位置、向き、居室の空間作りを行っている。畳部屋の方が下肢筋力の低下等によって、全員ベッドが必要になった。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	同敷地内のデイサービスセンター、特養の協力を得ながら、グループホーム以外での楽しみ方も取り入れている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常に鞆を抱えておられ、小銭を所持されている方が1名居られるが、残金については日によって変り把握できていない。ご家族の理解は得ている。散髪、買い物などお金が掛かるから嫌と表現される方は居られるが、使い方の理解は出来ていない方が殆ど。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夜間を除き施設は行っておらず、自由に出かけられる。介助を要する利用者さんも戸外に出て季節感、開放感を感じていただく事を大切と考え取り組んでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常会話の中に出てくる故郷めぐり、季節に応じた外出、ご家族との外出など、機会は多いし、また機会作りに取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	限られるが、ご家族から届いた小包のお礼など、ご本人の声を家族に聞いていただく良い機会と捉え、職員が中に入り援助を行っている。自室に電話を備え付けられている方もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	限られた空間の中で、満足していただいているかは解らないが、職員の言葉、態度、面会場所の気遣いには注意し、来ていただきやすい雰囲気作りを申し合わせている。		認知症、施設利用の理解が得られず、友人の面会時「立派な人がこんなになって・・・」「家族は来られますか」等の言葉が聞かれ、困った事例もある。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉、行い全てに拘束の場面があることを、職員に機会あるごとに伝えている。また、その様な場面に会ったときは、その場で注意している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外、鍵は掛けられていない。玄関からも裏口からも自由に出入りされている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動範囲の広い方も居られ、運営推進会議委員さんや(地域の方)法人内職員の協力もお願いしている。また、玄関センサーによって出かけられた時間を把握し、様子を見に行く事を職員全員に徹底している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火訓練の実施、救急搬送の仕方、誤嚥時の対応等同時に学んでいる。	○	今後も繰り返し実施していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		○	新規職員(1~2名)への訓練を実施していく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施。	○	近所の人達が到着されるまでを想定した訓練は行っているが、今後も地域への働きかけは必要と考える。運営推進会議等の場で理解を求めていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るであろうリスクの説明は行い、理解して貰っている。	○	日々、変化があり、こまめな対応と説明が必要と考えている。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師を中心に情報を共有する事に努めている。記録、職員間の連絡ノートを使っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多いもの、食材の工夫、水分補給に努めている。運動不足解消を心がけているが、体調の変化、重度化によって管理が難しくなっている。必要に応じ、本体施設特養の管理栄養士または、栄養士の助言を得ている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	行っている。口腔ケア専門講師を直接お招きし、利用者の歯の状況も見てください、歯科医受診も行っている。	○	認知症の方の口腔ケアは、ご本人の理解が得にくく困難な場面に多々出会う。(義歯の清潔保持・紛失など)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物の種類の工夫、状態の工夫等行っている(トロミ、ゼリー)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防注射の実施(希望者)、感染症予防のマニュアル作成		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器乾燥機の使用。買い置き量の管理を行い、毎日食材の購入を行う事で、新鮮で安全なものを使用できるように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に開錠、花を植える等親しみやすい雰囲気作りに努力している。が、なれない方にとっては、案内が必要な時がある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暑さ対策として日除けテントの設置。ホールの空間の見栄えを良くし、居心地良い空間作りを考え倉庫を購入し、普段使用しない物の整理を実施。外の景色が見え易くし、季節感を感じてもらえるよう考えた。	○	今後も状況に応じ考えていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限界はあると思っているが、利用者さんの動きに合わせて、椅子やソファ、テーブルを置き努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの色、持ち物をご家族にお願いし持参して貰っている。	○	ご家族との関係、日常の行動に危険な状況があり、無理な方もある。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレに温風ヒーター設置し、冬場のホールとの温度差が解消された。体調管理のためにも、温度差には気を使っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置。必要な場所に休み場を作っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札、張り紙、見覚えのある絵や掛け物を活用している。また、職員が同じ内容の声掛け、説明を行っていくことで混乱を防ぐ努力を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には花の鉢植え(利用者さんの思い出の花も)。裏には畑があり、季節のものを一緒に植えたり、収穫を楽しんだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

真愛の家 恵の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者さんが年々重度化していく中で、排泄ケアは大切なことと考え、排泄の持つ意味について基本から考え直し快適なケアを目指す取り組みを始めた。